

第6学年 外国語科学習指導案

日 時 令和4年11月17日(木) 5校時
 対象者 6年い組 計32人
 指導者 教諭 島田 美樹

1 単元(題材)名 Lesson4 Welcome to Japan

2 単元の目標

日本のことを紹介する言い方を理解し、聞き手を意識しながら日本のことを紹介することができる。

3 言語材料

- ・ Welcome to Japan.
- ・ We have ~ (in _____).
- ・ It's ~.
- ・ 日本に関する英単語

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

5年生では、Lesson9 I love my town.で自分の町紹介をしている。これまでに総合的な学習の時間や生活科の時間で自分たちの住んでいる地域のことを学んだことを活かし、自分の町をALT に紹介することにより、改めて自分の町を見直すことができた。また、Lesson3 Where do you want to go?では、行きたい国とその理由について学習することで、その国の特色やよさについて学ぶことができた。

本単元では、日本の食べ物や自然、行事、名所などについて紹介する。今回は日本全土に範囲を広げ、日本の良さを再発見して自分の言葉で発信させたいという願いが込められている。聞き手には海外の方を招待し、直接日本の良さを紹介することで聞き手を意識させながら発表させたい。

(2) 児童の実態

外国語科学習についてのアンケート調査

令和4年9月 (32人) 実施

A: そう思う B: やや思う C: あまり思わない D: 思わない	A	B	C	D
① あなたは英語が好きですか。	8人	16人	7人	1人
② 英語で聞いたり話したりする活動は好きですか。	6人	14人	10人	2人
③ あなたは英語の文字を読んだり書いたりする活動は好きですか。	8人	11人	10人	3人
④ 外国のことをもっと知りたいですか。	13人	15人	4人	0人
⑤ 日本のことを外国の人に知ってもらいたいですか。	15人	14人	3人	0人
⑥ 習った英語を使って、外国の人と話してみたいですか。	8人	14人	6人	4人

⑦ 英語の授業の中で好きな活動は何ですか。(複数回答可)

- ・ 英語の歌を歌う (16人)
- ・ 英語のゲーム (27人)
- ・ 英語で発表 (3人)
- ・ 英語で動画撮影 (14人)
- ・ 英語でのインタビュー (2人)
- ・ 英語による読み聞かせ (3人)
- ・ その他(英語の問題を解くこと) (1人)

- ⑧ 習った英語を活かして、どんなことをしてみたいですか。
- ・外国の人と英語で話したい。
 - ・外国に旅行に行きたい。
 - ・英語の文章を読んだり書いたりしてみたい。
 - ・通訳・ALT と会話してみたい。
 - ・外国の人に日本のいいところやおすすめの場所を教えてあげたい。
 - ・英語の本を読んでみたい。
- ⑨ 英語の授業で困ったことはありますか。
- ・発音よく話すことが出来ない。
 - ・うまく発表できない。
 - ・英語が言えるけど読めない。
 - ・書くことが難しい。

本意識アンケートから、英語の好きな児童が全体の7割程度いることが分かる。外国のことに興味をもち、日本のことも外国の人に知ってほしいという児童が多いことから、国際交流に関して関心が高いことが分かる。その一方で、英語を聞いたり話したりすることに対して抵抗がある児童も多く、外国の方と英語で話してみることに對しても消極的である。本学級の児童は、週2回の外国語の授業を英語加配と一緒に学んでいる。しかしALTは月に1・2回しか来校することができず、外国の人と交流する機会は少ない。英語でゲームをしたり歌を歌ったり英語を学ぶ意欲はあるが、英語を使ってコミュニケーションをとることに抵抗がある児童が多い。

以上の実態を踏まえて、本単元では聞き手に海外の方を招待し、外国の方と交流する機会を設ける。実際に英語を使ってコミュニケーションを取りながら、相手に対して配慮を伴い、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けさせる。

(3) 学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善に向けて

出典：令和3年度鹿児島学習定着度調査中学校外国語科

【書くこと】

ア 出題について

- ・対話文中の空所に当てはまる表現を文脈から判断し、適切な英語を用いて表現させる問題を出題。
- ・与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文、不定詞を伴う3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く問題を出題。

イ 特徴ある問題から

- ・中2大問9 基本文の語順を答える問題
- ・中2大問10 対話の場面を理解し、英文を完成させるために適切な表現を答える問題
- ・中2大問11 基本文を用いて、第3者を紹介するための英文を書く問題

<p>9 次の(1)から(3)までのそれぞれが自然な対話となるように、<input type="text"/>の部分に[]内の語句を並べかえて英文を完成させなさい。答えは、左から順に記号で書きなさい。(※ []は省略)</p> <p>(1) 自宅で</p> <p>A: Can I go shopping now? B: No, you <input type="text"/>. Dinner is ready. 通過率 77.1% (R2類似 (It is not mine.) 75.3%)</p> <p>(2) 放課後に</p> <p>A: Tomorrow is Meg's birthday. I <input type="text"/>. She usually uses old one. B: Sounds great. 通過率 54.9% (R2類似 (... show me your book?) 64.0%)</p> <p>(3) 登校中に</p> <p>A: What did you do yesterday? B: I went to <input type="text"/> with my family. 通過率 46.0% (R2類似 (... restaurant to have dinner ...) 75.3%)</p>	<p>10 例を参考にして、話が成り立つように、()内の語に不足している語を補って、英文を完成させなさい。なお、()内の語は、必要に応じて形を変えること。</p> <p>冬休み (winter vacation) 明けに、教室で</p> <p>Chris: What did you do in the winter vacation? Takashi: My family and I went to see our grandparents in Yakushima. (stay → We stayed) there for a week. Chris: Wow! Wonderful! 通過率 29.1% 無解答率 14.0%</p> <p>11 次の表の(1)から(3)は、ある男子中学生に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼について説明する英文をそれぞれ書きなさい。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>(1)</td> <td>出身</td> <td>Korea</td> <td>Ⓐ He is from Korea.</td> <td>通過率 55.3% 無解答率 6.8%</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>住んでいる都市</td> <td>London</td> <td>Ⓐ He lives in London.</td> <td>通過率 39.7% 無解答率 9.0%</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>将来の夢</td> <td>歌手 (singer) になること</td> <td>Ⓐ He wants to be a singer. His dream is to be a singer.</td> <td>通過率 23.6% 無解答率 12.8%</td> </tr> </table>	(1)	出身	Korea	Ⓐ He is from Korea.	通過率 55.3% 無解答率 6.8%	(2)	住んでいる都市	London	Ⓐ He lives in London.	通過率 39.7% 無解答率 9.0%	(3)	将来の夢	歌手 (singer) になること	Ⓐ He wants to be a singer. His dream is to be a singer.	通過率 23.6% 無解答率 12.8%
(1)	出身	Korea	Ⓐ He is from Korea.	通過率 55.3% 無解答率 6.8%												
(2)	住んでいる都市	London	Ⓐ He lives in London.	通過率 39.7% 無解答率 9.0%												
(3)	将来の夢	歌手 (singer) になること	Ⓐ He wants to be a singer. His dream is to be a singer.	通過率 23.6% 無解答率 12.8%												
<p>考えられる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学年で習得させるべき基本文(否定文、二つの目的を取る動詞、不定詞)が定着していない。 ●代名詞などの言語材料をコミュニケーション場面で使いこなす力を身に付けさせていない。 ●過去の調査から明らかになっている課題を解決させないまま調査を受けさせている。 																

【読むこと】

ア 出題について

- ・ 社会的な話題について、自分の考えが書けるよう概要を読み取ることができるか。

イ 特徴ある問題から

- ・ 中2大問8 120語程度の英文を読み、質問に答える問題

8 次は、中学生のカイト (Kaito) が書いた英文です。これを読んで考えたことを英文で書く宿題が出ました。あなたの考えを英文で書きなさい。なお、英文はIまたはWeで書き始めること。

I'm going to talk about this book. It's a book about Malala. Do you know her?

Malala was born in Pakistan. Her father made schools for boys and girls there. She liked to go to school, but from 2008, the girls couldn't learn at school. She started to write about her life. Many people in the world read her blog and knew about the difficult times of the people in Pakistan.

In 2012, Malala was shot, but she lived. And she got the Nobel Prize in 2014.

Malala thinks that every boy and girl has the right to go to school, but in some places now, many boys and girls can't. They sometimes have to work for their family.

(正答例) (I think) Japanese students are happy.

We are happy (because we can go to school.

I hope everyone can go to school. など

通過率 45.3% 無解答率 23.4%

考えられる課題

- 初見の英語の概要や要点を捉える読み方が身に付いていない。
- 読んだ内容について、自分の考えや気持ちを表出することに慣れていない。
- 実際のコミュニケーション場面を想定した問題に慣れていない。

本授業は、「学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善」として、授業改善を図ることを目的とした授業である。

具体的には、令和3年度の鹿児島学習定着度調査中学校外国語科の大問9・10・11から「言語材料をコミュニケーション場面で使いこなす力を身に付けさせていない。」という課題が挙げられた。授業改善のポイントとしては、「既習事項を自在に使いこなせるようになるには、それらをコミュニケーション場面で使う経験を繰り返す必要がある。身に付けるべき表現を使う必然性のある場面を設定した上で、誤りがあったら修正を加えながら徐々に表現の正確さを高めていく。」ことが挙げられている。また、大問8において、「読んだ内容について、自分の考えや気持ちを表出することに慣れていない。」ことから、「何のために」「誰に対して」などの目的を明確にしながら、コミュニケーション場面で英語を使う経験を繰り返す必要がある。これらのポイントを意識して、第6学年のLesson 4 Welcome to Japan.を構想した。ここでは海外の方へ日本のことを紹介するために身に付けるべき表現を使う必然性のある場面を設定した。

単元の導入段階では、実際に外国の方を招待し日本のことを紹介することを伝える。そのためには、どんな発表をしたらよいのか ALT にモデルを発表してもらい具体的な発表イメージを持たせる。

展開段階では、グループで発表させることでお互いの発表を確認させ、友達やALTからアドバイスをもらい自己調整をさせる時間を設定する。そこで、これまでの既習表現を使うことができなから考えさせる。発表では、グループごとに発表を聞いてもらい、実際に質疑応答をすることで、相手を意識しながら発表させることを経験させ、コミュニケーション場面で使いこなす力を身に付けさせたい。実際のコミュニケーションの中で、簡単な自己紹介や既習表現を使いながら他者とのコミュニケーションを円滑に進めることの重要性に気付かせていく。

終末段階では、来校してくれた海外の方へ簡単な英語でお礼のカードを書かせ、コミュニケーションをとる上で相手意識をもつことが大切であることに改めて気付かせる。

毎時間の「振り返る」過程では、この授業の前と後でどんなところが変容したか、何ができるようになったか、次回の学習に生かしていきたいことは何か、などの視点を与えて振り返らせることで、自らの学習を粘り強く自己調整することができるようにしたい。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔発表〕	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食べ物や自然, 行事, 名所などに関する語句, Welcome to Japan. We have～(in～).It's～.の表現について理解している。 日本の食べ物や自然, 行事, 名所などに関する語句, Welcome to Japan. We have～(in～).It's～.の表現を用いて考えや気持ちを伝える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを目指して, 意欲的に紹介している。 相手によりよく分かってもらえるように, 既習表現を用いて考えや気持ちなどを発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを目指して, 意欲的に紹介しようとしている。 相手によりよく分かってもらえるように, 既習表現を用いて, 考えや気持ちなどを発表しようとしている。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食べ物や自然, 行事, 名所などに関する語句, Welcome to Japan. We have～(in～).It's～.の表現について理解している。 日本の食べ物や自然, 行事, 名所などに関する語句, Welcome to Japan. We have～(in～).It's～.の表現を用いて考えや気持ちを伝える技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手によりよく分かってもらえるように, 音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて, 考えや気持ちなどを書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手によりよく分かってもらえるように, 音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて, 考えや気持ちなどを書こうとしている。

6 単元指導計画 (全7時間)

時	【Today's goal】 ○ 主な学習内容	評価		
		知技	思判表	態度 評価規準 (評価方法)
1	<p>【日本にはどんなよいところがあるだろうか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標を知る。「海外の人に日本のことを紹介しよう。」 単元の学習の見通しを持つ。 日本の食べ物, 自然, 行事, 名所の言い方を理解する。 			<p>本時では, 記録に残す評価は行わないが, 目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても, 教師が児童の学習状況を確認する。</p>
2	<p>【紹介したいテーマをグループで話し合おう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語材料を使って日本のことを紹介する言い方を理解する。 We have ～. It's ～. に慣れ親しむための活動を行う。 各グループで紹介したいことを話し合う。 			<p>本時では, 記録に残す評価は行わないが, 目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても, 教師が児童の学習状況を確認する。</p>

3	<p>【紹介したい内容をグループで考えよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言語材料を使って日本のことを紹介する言い方を練習する。 ○ We have ～. It's ～. に慣れ親しむための活動を行う。 ○ 紹介のために、紹介文を考える。 		書	書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本を紹介するための語彙や表現を用いて、スピーチ原稿を作成することができる。 (行動観察) (書き込み点検)
4	<p>【発表の練習をしよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまで学習してきた言語材料を使って、日本のことを紹介するための練習を行う。 	発	発	発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞く人に配慮した発表をしている。 (行動観察) (振り返りカード)
5 本時	<p>【日本のよさがもっと伝わるようにするためには、どんな工夫をすればよいだろうか。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ALT の発表を聞き、違いに気付く。 ○ 聞き手にわかりやすく伝えるための工夫を考える。(自己調整) ○ グループでお互いの発表を確認し合い、よりよい発表にするためにどんな工夫をするとよいか助言し合う。 	発 書	発	発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手に分かりやすく伝える工夫に気付くことができる。 (行動観察) (振り返りカード) ・ ワークシートに表現を書き加えることができる。 (書き込み点検)
6	<p>【外国の人に日本のよさが伝わるように紹介をしよう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手意識をもちながら、外国の人に日本のことを紹介する。 	発	発	発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手に分かりやすく伝える工夫に気付くことができる。 (行動観察) (振り返りカード)
7	<p>【お礼のカードを書こう。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お礼のカードを書きながら、発表を振り返る。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p> </div>			

7 本時 (5/7)

(1) 目 標 日本のことを紹介する言い方に慣れ、聞き手に分かりやすく伝える工夫をすることができる。

(2) 実 際

過程	主な学習活動	時間 (分)	指導上の留意点 (※評価)
ふれる	1 Greetings <ul style="list-style-type: none"> 英語であいさつをする。 	3	○ 日付や曜日など既習事項を繰り返し取り扱うことで、英語に慣れさせる。
慣れる	2 Song <ul style="list-style-type: none"> フォニックスソングを歌う。 	2	○ 楽しい雰囲気をつくるようにする。
	3 Warm-up (1) 既習の英語表現を活用したクイズをする。 (2) 基本の発表を聞き、よりよい発表にするためにどんなことを付け加えれば良いかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> • Welcome to ~. • We have ~ in <u>場所</u>. • It's ~. </div>	5 3	○ クイズをしながら、既習表現を練習させる。 ○ 単元のゴールとしてふさわしい ALT の発表を見せることで、本時の学習課題への意欲をもたせる。どのようなことを付け加えるとよりよい発表になるかを考えさせる。
	4 Today's Goal <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 日本のよさがもっと伝わるようにするためには、どんな工夫をすればよいだろうか。 </div>	2	
広げる	5 Activity 1 (1) 全体でポイントを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 目線 ○ 声の大きさ ○ ジェスチャー ○ 文を付け加える。 (・ I like ~ ・ You can ~. など) (2) 個人で付け加えたい表現をワークシートに書き加えたり、発表を練習したりする。 (3) よりよい発表にするためにどんな工夫をするとよいかペアで助言し合う。	5 7 5	○ 前時までのワークシートを活用しながら発表することで、安心感をもたせる。 ○ 子どもから考えが出てこない場合は、教師が準備していた ALT の紹介動画を見せることで、基本の発表との違いに気付かせる。
	6 Activity 2 自分のグループ内でお互いの発表を確認し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> • Welcome to Japan. • We have hot springs in <u>Japan</u>. • <u>I like hot springs.</u> • <u>You can eat onsen manju.</u> • It's sweet. </div>	10	○ 一度自分の発表を確認することで、不十分な点に気付かせる。その上で、「もっとよくするためにどうしたらよいか。」を全体で共有させる。 ※ 聞き手に分かりやすく伝える工夫に気付くことができたか。(行動観察・振り返りカード) ※ ワークシートに表現を書き加えることができたか。(書き込み点検)
振り返る	7 Looking back (1) 本時の学習を振り返る。 (2) 次時の学習内容を確認する。	3	○ 振り返りの視点を与えることで、本時で何を学んだかを自覚化させる。

【授業の主旨説明】

本授業は、「学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善」として、授業改善を図ることを目的とした授業である。

具体的には、令和3年度の鹿児島学習定着度調査中学校外国語科の結果から「言語材料をコミュニケーション場面で使いこなす力を身に付けさせていない。」という課題が挙げられた。

授業改善のポイントとしては、「既習事項を自在に使いこなせるようになるには、それらをコミュニケーション場面で使う経験を繰り返す必要がある。身に付けるべき表現を使う必然性のある場面を設定した上で、誤りがあったら修正を加えながら徐々に表現の正確さを高めていく。」ことが挙げられている。「何のために」「誰に対して」などの目的を明確にしながら、コミュニケーション場面で英語を使う経験を繰り返す必要がある。これらのポイントを意識して、第6学年の Lesson 4 Welcome to Japan.を構想した。

ここでは、海外の方へ日本のことを紹介するという身に付けるべき表現を使う必然性のある場面を設定した。外国の方と交流する機会を通して、実際に英語を使ってコミュニケーションを取りながら、相手に対して配慮を伴い、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けさせていきたい。